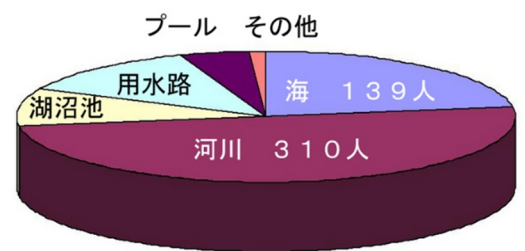


新境地 しんきようちネクストステージ

暑い夏の危険な誘惑

雨の日が多く、梅雨明けが待ち遠しい7月でしたね。梅雨が明ければ気温も上がり暑い夏がやってきます。暑くなると恋しくなるのが、海や川、プールと言った水辺。でも水辺には危険があります。

右のグラフは、2006年～2018年までの12年間に中学生以下の子どもがどこで命を落としたか、あるいは行方不明になったかを表した円グラフです。河川が310人で最も多いことがわかります。全年齢範囲だと海で亡くなる人が最も多くなるのですが、中学生以下の場合には河川で命を落とすことが多いようです。また昨年度のデータでは河川での事故の原因の約半数(46%)は「水遊び」でした。(警察庁 水難の概況より)



『川には流れがあるから危険だ』と思っている人が多いと思います。だから「私は泳がないから大丈夫」「少し水に足をつけるだけだから大丈夫」と、川に入って遊ぶ人がいるでしょう。でも流れが急だから溺れてしまうのが全てではありません。本当に怖いのは急な深みで、その深みにはまって突然呼吸ができなくなり、人は溺れるのです。川では歩けるほどの浅い所と急に深くなっている所とが極端にわかれます。それが川の怖さです。

みなさんの身近に流れる道志川や相模川では毎年のように水の事故が起きています。数年前には中学生が亡くなる水の事故もありました。昨年1年間で神奈川県での水の事故は52件発生していて、7月～9月はそのうちの34件でした。暑くなり、川や海で遊ぶ機会が多くなるこの時期は特に気をつけなければなりません。緩やかな流れに見えても川底の流れが複雑であったり、浅いようで急に深くなったりするところがあります。遊泳禁止の場所では絶対に泳がないこと、川や海に行く時は必ず大人と一緒に行くようにしてください。興味本位や冒険心で、危険を冒すような行動は絶対にしないようにしましょう。また互いに声を掛け合って、危険を予測できるように注意し合しましょう。

『最悪のケースを考えると、何だか悲観主義者のように思われるかもしれないけど、僕はそうは思わない。最悪を想定するのは、「失敗するかもしれない」と弱気になるためではなく、何が起きてもそれを受け止める覚悟があるという「決心を固める」作業でもあるからだ。』

by 長谷部 誠 (サッカー選手)